

2019 年度
環境経営レポート

対象期間
2018 年 9 月～2019 年 8 月

2019 年 10 月 25 日

昭和ネームプレート株式会社

環 境 方 針

昭和ネームプレート株式会社は、事業活動において

① 地球環境の保全が人類共通の最重要課題であること

② 地域社会の環境保全が地域の発展及び共存の上で重要であることを認識

し、可能な限りの範囲で目標を定め、省資源、省エネルギー、

リサイクルを推進し、環境負荷に配慮した活動を実行します。

それらをふまえ下記に環境方針を定め継続的に改善します。

1. 廃棄物の削減及びリサイクルの推進
2. 電気・ガソリン・ガス等のエネルギーの削減
3. 水資源の節水
4. 化学物質を正しく使用し管理する
5. 環境関連法規制等の遵守
6. グリーン購入の実施
7. 長期的に LED 照明の推進

2018年10月24日

昭和ネームプレート株式会社

代表取締役 大熊 浩和

事業活動の概要

- (1) 会社名 昭和ネムプレート株式会社
- (2) 代表者 代表取締役社長 大熊浩和
- (3) 設 立 1957年（昭和32）4月29日
- (4) 資本金 1,000万円
- (5) 事業内容 ネムプレート・パネル・ラベルの製造及び販売
「樹脂金属のプレス加工の製造および販売」については
レイクタウン工場拡大により、追加【2018年5月にEA21拡大申請済み】
- (6) 事業規模 年間売上 約505百万円（2019年度実績）
従業員 40名
- (7) 本社所在地 東京都荒川区荒川6-52-10
TEL 03-3892-4221（代） FAX 03-3892-4222
- (8) 審査対象工場 昭和ネムプレート株式会社 埼玉工場
埼玉県越谷市蒲生3882-1
TEL 048-988-7611（代） FAX 048-986-6261
E-mail sato@showa-np.com
レイクタウン工場【2018年5月にEA21拡大申請済み】
〒343-0825
埼玉県越谷市大成町7-449-1
- (9) 工場規模 延面積 約1,089㎡
- (10) 環境管理責任者
代表者 代表取締役社長 大熊浩和
管理責任者 井口 忠久

環境目標とその実績

			2019年度 2018.9～ 2019.8 (目標.実績)	基準年度 2018年度 (実績) BM	2020年度 2019.9～ 2020.8 (目標)	2021年度 2020.9～ 2021.8 (目標)	2022年度 2021.9～ 2022.8 (目標)
二酸化炭素 排出量の削減	CO2の削減	総量 (kg/年)	89660(目標) 74430(実績)	89660	73969 (17.5%)	73521 (18%)	73072 (18.5%)
節水	総排水量削減	総量 (m ³ /年)	518(目標) 548(実績)	518	515.9(0.4%)	514.3(0.7%)	512.8(1%)
廃棄物量の削減	一般廃棄物削減	総量 (kg/年)	545(目標) 300(実績)	300(25/月)	300(25/月)	300(25/月)	300(25/月)
	産業廃棄物の削減	総量 (kg/年)	10366.5(目標) 13960.0(実績)	13960.0	13820.4(1%)	13541.2(3%)	13262.0(5%)
	段ボールの再利用	再利用率 (kg/年)	リサイクル率 100%	リサイクル率 100%	リサイクル率 100%	リサイクル率 100%	リサイクル率 100%
グリーン調達の推進	事務用品等の購入			現状購入品については少量であるが、長期にかけて100%を目指す。			
長期的にエアコン入替えの推進	消費電力の違いや電気料金の差額を調べる。			E A会議で検討し部長会議へインプットする。			

(電力：日本テクノ(株)2016年度調整後排出係数 0.447 (kg-CO2/kwh) レイクタウン工場は東京電力(株)2016年度調整後排出係数 0.474 (kg-CO2/kwh) の換算値を使用。)

- 1 Co2 排出量、総排水量については 2018 年度実績を BM とする。産業廃棄物は 2019 年度を BM とし、一般廃棄物は 2019 年度実績を BM とし維持管理とする。
- 2 中期目標は 2022 年度が終了した時点で中期目標の見直しをする。
- 3 この他に次のことに取り組みます。
 - ・化学物質を正しく使用し管理（棚卸し等）削減にむけて活動する。
 - ・埼玉工場と레이크タウン工場(プレス部) の実績を合算し活動する。

環境目標・活動計画と評価

対象期間(2018年9月～2019年8月)までの目標とその実績についての計画と評価

取り組み項目		達成状況	評価(結果と今後の方向)
二酸化炭素排出量の削減	電力・ガス・ガソリン等の削減	B.M に対し-17% 達成 0.4%目標に対し 達成率 120%	今年度は生産量が増加傾向であるにもかかわらずBM に対して-17%削減できた。各員のエコ意識の高まりと7月に省エネタイプのエアコンに変えた事が成果に繋がったと思われ評価できる。今後も過度な節電をすることなく削減活動していきたい
	総排水量の削減	B.M に対し+5.4% 達成 0.4%目標に対し 達成率 94%	総排水量については前半に漏水があったことにより大幅なプラスとなったが業者によるアドバイスを受けて活動した結果後半は挽回することが出来た。しかし通年で+5.4%となり目標未達という結果に終わった為作業に影響しない程度に無理なく活動していく。
一廃棄物量の削減	一般廃棄物の削減	B.M に対し-44.9% 達成 0.4%目標に対し 達成率 180%	今期、廃棄物の見直しをした結果大幅にマイナスにすることが出来た。分別の見直しを行った事により今後は小量になる為維持管理として活動していく。
	産業廃棄物の削減	B.M に対し+34.7% 達成 0.4%目標に対し 達成率 74%	産廃については在庫品の大量廃棄、生産量の増加の為大幅にオーバーしてしまった。毎年のことではあるが、材料ロスの少ない製法を徹底し各部協力して削減活動していく事が重要である。
化学物質の使用と管理	使用化学物質の種類を把握し正しく管理する。	社内にあるインクや溶剤等の使用状況・保管量を把握する。	棚卸し等の管理を行い、今迄以上の管理が出来た。今期も有機溶剤を安全に、正しく使用していく。
グリーン調達 の推進	事務用品等の購入	少量ではあるが目標に対し活動した。	長期にかけて100%を目指す。
長期的に LED照明 の推進	消費電力の違いや電気料金の差額を調べる。	社外からの情報提供の依頼。	各部の目標に向け活動に繋げる。
<p>(総評) 今期は前年度途中にLED照明を導入した事により本格的に成果が出る年であったが電気が前年度同月期比と比べても全ての月でマイナスとなり結果CO2が大きな成果が出た事は評価できる。又、今期は7月にエアコンを1台省エネタイプの機種に入れ替えたことも影響していると思われる。まだ、経過年数の古い機種が多数あり引き続き入替えの推進をしていく必要が有るだろう。又、スマートクロックの活用が根付いてきていることも要因としてあるだろう。産業廃棄物が未達成になってしまったがガイドラインの改訂により集計方法が変わった事と各部で古い品番の在庫等大量に廃棄しており又、製品の大型化によってプレスの抜きカスが影響し大幅な未達になってしまっているが原因がはっきりしており仕事量にも影響され来期は、削減活動も厳しい事もありサイクルの推進を強化していく事も重要である。総排水量は未達成になったが業者が変わった事と前期に大きく増加した事で業者による漏水の確認と節水のアドバイスを受けて活動した結果、後半はマイナスとなり挽回したがプラスとなった。アドバイス受けた節水術を継続していく必要がある。今期は、埼玉工場とレイクタウン工場を合算した事で来期はBM値を見直す必要があり目標設定の仕方をも含めて検討して活動する。</p>			

環境関連法の遵守状況

環境関連法規等にとっとり、遵守しています。

「埼玉工場・レイクタウン工場に適用とする環境関連法規一覧表」を基にその遵守状況を評価した結果、遵守していることを確認した。また、過去5年間にわたって違反や訴訟は1件も発生していません。

昭和ネームプレート株式会社埼玉工場

代表取締役社長 大熊浩和

管理責任者 吉岡靖夫

2019.10.25

(代表者による評価及び見直し結果)

今年度は、Co2排出量が年間を通してすべての期間で、BMを下回ることができたことは、評価できる。昨年度LED化を実施したため今年度が真価を問われる状況であり、さらに今年度は、生産量が増加しているにも関わらずCo2の排出削減を実現できたことは、今後のエコ活動に大いに役立つと思われる。なぜ、削減できたかをEA委員会の中で検証し、引き続き活動を強化し今後につなげることが大切である。反面、産廃については未達になってしまっている。ガイドラインの改定により集計方法が変わったこと等の要因もあるが、さらに細かく未達要因を分析し、来期に向けて産廃排出量を減少する取り組みが必要である。それぞれの部署が、その役割の中で、いかに産廃を減らすことができるかを分析し、実行につなげなければならない。Co2削減、産廃削減に共通して言えることは、生産性の向上(無駄の無い製造工程によるCo2削減、ロスの無い物作りによる産廃の削減)や不良の削減(廃棄不良の減少、検査時間短縮によるCo2削減)であり、全ての部署協力の上、実行しなければならない。来期に向けては、BM等の見直しも必要と思われる努力して達成できる目標を設定し、全社一丸となりエコ活動を楽しみながら実行したい。